

## 第 27 回参議院議員選挙結果を踏まえたコメント

2025 年 7 月 25 日

日本鉄道労働組合連合会（JR 連合）

第 27 回参議院議員選挙において、推薦候補の必勝に向けてご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに御礼を申し上げる。また、献身的に奮闘されたすべての関係者にも敬意を表する。

昨今の国会における情勢は、昨年の衆議院議員選挙において与党が大きく議席を失い、過半数割れの状況の中、立憲民主党や国民民主党が存在感を増したことにより、昨年 12 月には、28 年ぶりに政府の予算案が国会審議で修正され、補正予算が成立したほか、年収の壁の見直しをめぐる、野党の意見が反映されるなど、近年にない動きがみられている。本選挙は、私たちの政策実現にとって効果的な流れを確実なものにするためにも、分水嶺ともいえる非常に重要な選挙であった。

今回の選挙結果は、与党が参議院においても過半数を下回ることとなり、あらためて国民が与党に「NO」を突きつけた形となった。一方、新興勢力が台頭し、既存政党への求心力の低下もみられた。また、投票日が三連休の中日に設定されたこともあり、期日前投票は国政選挙で過去最多であったほか、投票率も前回の参院選より 6.5 ポイント上昇し 58.5%であったが、決して高い水準とは言えず、より一層の投票行動の喚起が課題として残った。

JR 連合は、各単組からの推薦に基づき、連合の方針および JR 連合の掲げる運動理念や政策に賛同する人物本位の候補者を推薦のうえ、全国で当選に向けた取り組みを展開し、それを通して組織強化につなげてきた。最重点候補者では、JR 連合国会議員懇談会の会長である榛葉賀津也氏（静岡県）をはじめ、幹事である長浜博行氏（千葉県）、森本真治氏（広島県）、広田一氏（徳島県・高知県）が全員当選するとともに、重点候補者では「21 世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する、比例区の浜野喜史氏、田村麻美氏、小沢雅仁氏、愛媛県の永江孝子氏が当選を果たした。これは組織が一丸となって取り組んできた成果である。しかしながら、自動車連絡会と連携し、バスを中心とした交通政策に警鐘を鳴らし続けた比例区の森屋隆氏と、地元で根差した活動を通じて JR 九州労組を支え続けた野田国義氏が惜敗となったことは痛恨の極みである。

今回の選挙戦では、残念ながら排外主義的な言論が散見された。社会の分断を深刻化させるようなことはあってはならず、政治は丁寧かつ包摂的な合意形成のうえで行われるべきものである。そのためにも、政権を担い得る責任ある野党勢力の結集を通じた、緊張感ある国民目線の政治を実現させなければならない。JR 連合は、さらにプレゼンスを高めることを通じて、これまで与党内で実質的に決められていた国の政策方針や予算の配分構造、税制や整備新幹線などの重要課題の解消を図り、JR 産業の持続的な成長させていく決意である。そして、引き続き組織内で政治活動の意義を浸透させ、各種選挙における取り組みを深度化させていくこととする。

以 上